

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ



題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 新美 敢
 幹事 堀江宏輝
 会報委員長 魚津常義

No. 2

ロータリーに活力を——あなたの活力を

PUT LIFE INTO ROTARY — YOUR LIFE

1988～89年度 RI会長 ロイス・アビー

第294回例会 昭和63年 7月12日(火) 晴

◇“奉仕の理想”

◇出席報告

会員 56名 出席 38名
 出席率 67.86%
 前回 7月5日 (修正出席率)98.16%

◇ビジター紹介

東京RC 山本 恭平君 他17名

◇お誕生日祝福

尾関君 (7/19)

◇ニコボックス

水野 民也君 昨年1年間も、無事100%となりました。記念品ありがとうございます。

小笠原 清君 年度始めの大切な時期にホームクラブ連続欠席を致し申し訳ありません。日本生命はこの七月創業100年目を迎えました。皆様の御愛顧に感謝申し上げますと共に今後共よろしく御支援の程御願ひ申し上げます。

吉田 節美君 和田先生、家内が大変御世話になりました。

おかげさまで大変良くなり、呉々もよろしくとの事でした。

菅原 宣彦君 ネームプレートをつけ新幹線で東京に行きました。

充分千種ロータリーを宣伝してまいりました。

武内 清君 本日ゲストスピーカーに陰里先生をお迎えして。

黒須 一夫君、大口 弘和君 本厚生年金会館で、7月9日、10日の両日、日本歯内療法協会全国学術大会(大会長、黒須、実行副委員長、大口)が開催されましたが、北野館長には大変お世話になり有難うございました。

新美 敢君 新入会員 鈴木 理之さんをご紹介します。頂きます。

尾関 武弘君 誕生日祝い。

◇堀江幹事報告

1. ロータリーの友7月号がきておりますので、お帰りにお持ち下さい。

◇新入会員紹介



氏名 鈴木 理之 君
 生年月日 昭和11年11月7日
 事業所 鈴木能楽器店
 千種区振甫町2-17-12
 TEL 711-8789
 地位 代表者
 自宅 千種区振甫町2-17-12
 TEL 722-1300
 推薦者 新美 敢
 職業分類 つづみ
 委員会 親睦活動

◇新美会長挨拶

2年前の昭和61年の今日、当クラブの会員だった古川勝己さんが病気のため72才の生涯を閉じられました。ここに慎しんでご冥福をお祈り申し上げます。

「黙 祷」

当クラブも前期に満5周年式典を終り6周年目に入っております。振り返って見ますとロータリーの事は創立会長の水野さんがお解りになっているだけで後の者は何も知らないまま手探りの状態で今日に至ったと思います。今一度ロータリーを改めて見る必要があるのではないかと思います。ロータリーについて考えると言うことは、つまり自らがいろいろなクラブ行事や年次大会、IGF、出来れば国際大会に進んで参加してみると言う事だと思います。未経験の方は、この機会にロータリ

一を知るチャンスを生かして下さい。

唯お金を出し合っただけを単に社会に寄付するのみが奉仕ではありません。

一枚看板である職業奉仕は私たちが常に自分たちの職業に誇りをもって行動しなさい。そうすれば、あなたの職業は継続的努力を重ねることによって自然の内に社会に奉仕する事ができるのです。

何故ならば自分のもつ職業が繁栄することは社会が必要とする証しだからです。

この様な人たちの集合により社会に貢献できるという高度な精神を持った人を数多く育て世界を平和に少しでも寄与することが出来れば、この上のない喜びであります。

そうした考えに理解を示す方々を生みだすことが肝心であります。

そのための手段として親睦が強調され、会員の増強を求めているのであります。

親睦も、ともすると親睦にのみ終わってしまい、その根底にある目的を忘れがちになってはいけません。新入会員を含め多くの皆さんがクラブの行事に参加努力頂いてこそ、国際ロータリー会長の言う活力が生じてまいります。そして我々のクラブの活力ともなって参ります。どうか、よい機会を見つけられ、ご協力くださいます様切にお願いする次第です。職業分類に於いて、また会員の質の問題について色々なご意見がありました。

質が良いと言うことは、あるものに対応して初めて言い得ることです。私が例えば硬質な材料を必要とする場合、それに合った良質な品質を選び出すことに努力いたします。

ロータリーの場合ロータリーの精神に理解を示しそれらの行動に自ら参加できる人をこの場合「質の良い人」と呼んでも過言ではないと思っております。

今日職業についても日々その分野も多変化され、それはソフト面において著しいものがあり難しい問題と思えます。ロータリーについて申し上げれば、一業種お一人が最も理想であることは言うまでもありませんがロータリー精神の普及とそれに当る会員増強の必要性、テリトリーでの地域性など考えるとき、ある面での拡大解釈も止むを得ないと考えております。だからと言って粗製乱造しよう等と考えておるではありません。

皆さんの暖かいご理解をお願いする次第であります。

◆講演

“美術作品と経済価値”

三重県立美術館館長

陰里 鐵郎 氏

(紹介 武内君)



いま美術作品の経済的な価値に対する関心が高く、値段がよく話題になります。本来は作品と金銭的なものとは無関係だったと思うのですが、昔、王侯貴族や教会など権力者の

庇護のもとに制作が行われ、その報酬として、又作品が収集されるようになって、その対価として金銭が支払れるようになり、次第に値段が出来てきたと思われます。現在では美術作品が動産の一部になっています。絵画ブームは以前にもオイルショック前の40年代後半に一度ありましたが、今回はそれにつぐものといった感じです。ゴッホの“ひまわり”が58億円で取引され世界的な話題になりましたが、そのための余波も大きく、展覧会を催すとき海外から借りる作品の保険料を始めその他のコストが高くつき開催が次第に難しくなっています。世界の美術品の値段をつり上げているのは日本だという非難を受けています。一時期のアメリカがそうで、第一次大戦後に多くの美術品がヨーロッパからアメリカに流れました。それが今日のアメリカの美術館のもとをなしています。現在は日本が当時のアメリカと同じで国の富の増大とともに優れた美術品が入ってきています。これは当然の理とも言えるかも知れませんが、又結果的には民族の資産が豊かになるという意見もあります。但し、いずれにせよ良い作品を選ぶことが肝要です。作品を購入する場合、注意することは先づ本物か、どうかですが、最初の手掛りとしては作者の総目録と照合すること、又正確な情報をつかむためにも美術研究者のアドバイスを受けられることをお勧めします。自分の趣味生活を豊かにすることにもなるのでコレクションはお金の余裕のある人にはお勧めしたいと思います。アメリカの美術館の所蔵品はもとは個人のコレクションから出ています。いずれ日本でも、個人のコレクションが公共の人々の目にふれる社会の豊かなコレクションになってゆくのではないかと期待しています。(文責 武内)

◆例会変更のお知らせ

豊山一城北RC 7/26(水)夜間例会の為、PM 6:00より

名古屋南RC 7/27(木)F.S.M.の為、翠芳園にてPM 6:00より

◆次回例会(7月19日)

友愛の日(立食例会)

◆次々回例会(7月26日)

講演 “新聞戦争”

名古屋タイムズ理事社長

横内 恭 氏 (紹介 和田君)